

# アンデスの風 軽やかに

多くの登山客で賑わう鬼が嶽山頂広場で、世界的ケーナ奏者の清水俊晴さん(五六)と福井市有楽町が、昼食後にケーナの演奏を披露すると、世界のトップクラスの演奏に、居合わせた登山客たちは耳を傾けて、山登りの疲れを癒していた。高度なテクニクと情緒豊かな演奏は、まさにアンデスの風が吹き抜けるような美しさ。登山者の中には、その音色に心を奪われ、まるでアンデス山脈にいるかのような錯覚をおこしている人もいたようだった。



ケーナで「ビクニータ」を合奏する清水さん(奥)と弟子の山口さん(手前)

同席した弟子の山口尚美さんと伴に、「ビクニータ」(ビクニータの赤ちゃん)というアンデス地方の曲を合奏すると、そのハーモニーの美しさに、自分も参加したいと、早速ケーナの購入を決めた人もいたようだ。また、清水さんがポケットに忍ばせていた石笛で鳥の鳴き声を真似ると、

その一風変わったシンプルな楽器に皆興味津々で、手にとっては吹いていたが、素人には音を出すのさえ難しく、一同は木枯らしをピープー吹かせながらも、必死に挑戦し石笛に一心不乱に打ち込んでいた。

いい感じに吹いているように見えるが北風がピープー状態の高橋さん



中でも、なかなか音を出せなかった高橋由紀さんは、音を出せないにもかかわらず、楽器作りのための手頃な石を採取するなど制作に大変興味をもっていたようだ。小さな小石を拾っていたが、専門家清水先生からは、「河原で探す方が丸くていい石がある」とアドバイスされていた。石に穴をあけるドリルについても質問していたが、「割れてしまうことがあるので難しいがよく分からない」という答えは得られなかったようだ。近いうちに制作した石笛を披露してくれることを期待したい。

## 元気でチュ



**高橋由紀ちゃん**  
73年4月8日生まれ  
最近始めたトレイルランニングに夢中でしゅ☆  
風を受けながら新緑の小道を駆け抜ける爽快感がたまりませ〜ん。チャームポイントはお腹のえくぼよ。



**石山陽子ちゃん**  
72年9月15日生まれ  
山で心が開放されっぱなし。日頃のストレスも大自然の中で癒されまくりで〜す。アンデスの風に触発されてケーナの注文しちゃいました。早く来ないかなあ〜



**山口尚美ちゃん**  
75年5月15日生まれ  
山道具がいっぱい増えてきちゃってにんまりがとまりません。コッヘルもガスもシエラカップも貰いもの〜♪次はクスクスを山頂でだべろぞ!!

恋山新聞は未来につながる山のエコ活動を応援します

みらい つなぐ やま

もしもの時の滑落保険 遭難保険

KY 共済で安心の備えを

おかげさまで恋山新聞は今年で3周年 これからも皆様に愛される山活動を続けます

KY 共済

**山の食卓**

たまには洋風の山ご飯はいかが?

《材料》インスタントのパスタ 水 パン

水はプラティパスなどで持参すると便利です。パンは網でトーストしてソースを付けて食べると鍋や器の汚れ落としに役立て一石二鳥です。

悪計を思案する赤鬼を演じる登山客

その後、母親の白鬼を失った小鬼たちがどうなったかは、誰も知らないという事です。まだこの山に住んでいるのかもしれない。

泣きながら待ち続けました。やがて、白鬼を退治した場所には橋がかげられ、その橋を白鬼女橋(現・鯖江市)と呼ぶようになりました。この丹生ヶ岳も、鬼が住んでいたということで、鬼が嶽と呼ばれるようになりました。

おはなしトントン

昔むかし、丹生郷町(現・大虫町)に、丹生ヶ岳と呼ばれる山がありました。この山に、いつの頃からか白い女の鬼が住み着き、夜な夜な村に出ては品物を盗み、女子供をさらっては食い荒らしていました。

ある日、白鬼の悪行にたまりかねていた村人たちは、悪さをしようと山から下りて来た白鬼を追いかけ、追いかけて、日野川の河原でやつこの鬼を退治することができました。白鬼の亡き後、残された赤鬼は白鬼の帰りを待ちながら、自らも悪計を考えていました。白鬼退治で勢いづいた村人たちに追われ、とうとう日本海(現・敦賀市赤崎)まで追いつめられ、村人に殺されてしまいました。山に残された小鬼たちは、いつまでも帰ってこない白鬼を泣きながら待ち続けました。

小鬼が泣いてたという場所で小鬼に同情してさめざめと泣く登山客たち

鬼が嶽(越前市)にまつわる民話

## 白鬼伝説